

2017年度 聖学院大学総合研究所 牧会心理研究会 主催
 2017年 牧会サマーセミナー
 「牧会者の説教と自己ケア」 報告



コメンテーター：村上純子先生（下段左1）
 司会・コメンテーター：藤掛明先生（下段左2）
 発題者・コメンテーター：堀肇先生（下段右2）
 講師補助：花野井百合子先生（下段右1）

2017年9月11日（月）、総合研究所主催で教会サマーセミナーが行われた。このセミナーは毎年夏に、牧会者（牧師、伝道師など）限定で行われている一日プログラムで、牧会者特有の課題や問題意識を共有し、励まし合うことを目的としている。今回は18名の参加があり、特に女性教職者が多く参加されているという印象であった。

今回のテーマは「牧会者の説教と自己ケア」であった。過去の教会サマーセミナーにおいて、いつも分かち合いの中で話題として上がるのが「説教」であった。そこで、今回は教職者の関心が高いと思われる「説教」をテーマとして取り上げた。最初に参加者の簡単な自己紹介が行われ、それぞれがこのセミナーに期待することを分かち合った。

続いて堀肇先生（聖学院大学総合研究所特別研究員）からの発題があった。現役牧師でもあられる堀先生はご自身の体験談を多く盛り込みながら、「説教」にまつわる牧会者の課題を話された。先生がおっしゃっていたことで印象的だったのは、今まで「いつ」「どこで」「誰に」「何を」「どのように」

語るのかについては、多くの本が出版されており、また神学校の授業などでも教えられているが、「誰が」語るのかについてはほとんど触れられてきていなかった、という言葉であった。堀先生は、説教をする牧会者が準備段階で直面する課題、説教中の会衆の反応や自分の中で沸き起こる様々なこころの変化、説教後の感覚、感情など、今まであまり語られてこなかった部分を取り上げておられた。そして一つの結論として、牧会者の自己ケアの必要性、また、それを支えてくれる人間関係の必要性を述べておられた。質疑応答の時間には具体的な質問が多く出され、時間を延長するほどであり、参加者の関心の高さをうかがわせるものであった。

お昼の時間にはお弁当をいただきながら、参加者同士が自由に交流する場であった。参加者から、懐かしい再会や思いがけない出会いなどもあった、とお聞きした。

午後は5、6人の小グループに分かれ、グループごとにディスカッションを行った。このグループ・ディスカッションでは、午前の発題を受けて参加者たちが自分たちの思いや直面している困難などを率直に分かち合える場として設けられている。そのため、この場で話されることは秘密厳守であり、誰かの発言を否定や批判などはしないという約束のもと行われる。今回のテーマである「説教」の話に始まって、それ以外にも様々な話がなされ、お互いにいい励まし合いの時間になったと思われる。

その後、再度全体で集まり、各グループからの簡単な報告とスタッフからのコメント、堀先生の最後のまとめが行われた。小規模で、ゆったりと時間を使って自分たちのニーズに合った学びができる場を、これからもぜひ続けてほしいという参加者の言葉に、スタッフも励まされた。

（文責：村上純子 [むらかみ・じゅんこ] 聖学院大学人間福祉学部こども心理学科教授）